2022年10月1日発行 毎月1回1日発行 第735号

九経連月報
おすの九州・山口
KYUKEIREN MONTHLY

2022
10
October

巻頭言 原動力は九州・山口　世界を動かす“モノづくり”

理事　産業振興・デジタル推進委員会共同委員長　小笠原 浩〔(株)安川電機 会長兼社長〕

活動報告 新たな価値をともに創るKYUSHU(九州)を目指して

九州地域戦略会議「第19回夏季セミナー」

九州将来ビジョンと“幸せコミュニティ”の共有と意見交換を行う

第15回沖縄連携フォーラム

トピックス 西九州新幹線開業を契機として西九州地域の活性化を



稲佐山(1000万ドルの夜景)(長崎県)

一般社団法人
九州経済連合会

＼動画はこちらから／

九経連月報
おすの九州・山口
2022/10

CONTENTS

巻頭言

原動力は九州・山口　世界を動かす“モノづくり”

（一社）九州経済連合会　理事　産業振興・デジタル推進委員会共同委員長

小笠原　浩〔㈱安川電機　会長兼社長〕… 1

九経連活動報告

新たな価値をともに創るKYUSHU（九州）を目指して

九州地域戦略会議「第19回夏季セミナー」… 2

九州将来ビジョンと“幸せコミュニティ”の共有と意見交換を行う

第15回沖縄連携フォーラム … 4

日誌（８月）…… 6

トピックス

西九州新幹線開業を契機として西九州地域の活性化を …… 8

講演要旨

日本が目指すデジタル社会（上記「第19回夏季セミナー」での講演）

デジタル大臣・行政改革担当大臣・内閣府特命担当大臣（規制改革）※セミナー開催時　牧島　かれん … 10

会員紹介

株式会社セールスフォース・ジャパン …… 11

FPTジャパンホールディングス株式会社 …… 12

株式会社Ｌ is Ｂ …… 13

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～　与那原大綱曳まつり …… 14

九州・山口地域動向

… 15

表紙説明・スケジュール（10月）・新入会員企業（８月）

… 18

国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）からのお知らせ

… 19

巻頭言

原動力は九州・山口
世界を動かす“モノづくり”



(一社)九州経済連合会　理事　産業振興・デジタル推進委員会共同委員長
小笠原　浩
〔㈱安川電機　会長兼社長〕

本年６月の総会で理事を拝命いたしました。皆様方には、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげます。

2022年も終盤にさしかかっておりますが、ロシアによるウクライナ侵攻や、猛威を奮い続ける新型コロナウイルスなど対処すべき問題が山積しております。このような厳しい環境の中、皆様方に少しでも参考になればと考え、当社の歴史・取り組みをご紹介させていただきます。

九経連の初代会長は安川第五郎が務めておりますが、その第五郎が1915（大正４）年に創業した安川電機は、今年で107年目となりました。創業以来「電動機（モータ）とその応用」を事業領域に定め、その製品・技術により常に時代の先端企業を支え続けてきました。「技術立社」を社是として、事業の基盤である“メカトロニクス”のコンセプトを世界に先駆けて提唱し、「世界一」「世界初」の革新的な技術・製品の開発にこだわっております。

現在はソリューションコンセプト「i^3-Mechatronics（アイキューブ・メカトロニクス）」～個別のものを統合し（integrated）、それらを分析して知恵に変え（intelligent）、そして、一気に革新する（innovative）～を掲げ、お客さまに新たな価値を提供するよう努めております。

このような歴史的経緯のもと昨年９月に、本社・ロボット工場などがある北九州市黒崎において製品開発拠点である「安川テクノロジーセンタ」（YTC）を本格稼働させました。このYTCでは「i^3-Mechatronics」を自らが実践するため、製品の開発から生産まで一貫した取り組みを同じ場所で行うことにより、要素技術の製品への取り込みや開発から試作、生産までの大幅な時間短縮を目指しています。また、製品を開発した設計者が、自ら試作の作業に参加することにより、モノづくりに精通した開発力の向上も狙っています。YTC内に設置されたオープンイノベーションエリアにおいては、お客さまとの協業のみならず、大学機関等との連携が加速し、順調な滑り出しとなりました。活動をさらに加速させ、お客さまに勝っていただく製品をタイムリーに開発していきます。

九経連では、「九州将来ビジョン2030」において課題①「日本を動かすリーディング産業の育成・誘致」を掲げ、九州の優位性ある資源やデジタル技術を生かして新たな基幹産業を創出することを目指しております。当社と関連が深いロボット・モータ技術分野だけを取ってみても大きなポテンシャルがあります。これら技術の活用により生産性の向上を実現し、アジア諸地域をはじめ世界に対して競争力を高めながら豊かな社会の実現に寄与していきます。

また、デジタルの分野においても、当社では「YDX（YASKAWA Digital Transformation）」を推進し、経営情報の見える化をはじめ、グループ全体の開発・生産・販売におけるグローバルデータの一元化を進めております。九州全体でもデジタル分野の活動がますます活発化していきますので、当社もFA（Factory Automation）領域を中心に、さらに取り組みを拡大していきたいと思います。

今後とも会員各社の皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

新たな価値をともに創るKYUSHU（九州）を目指して

と　き　８月４日（木）～５日（金）
ところ　那覇市・ロワジールホテル那覇
参加者　98名

九州地域戦略会議「第19回夏季セミナー」

夏季セミナーは、九州の産官学のリーダーが一堂に会し、「一体となって九州の発展を図る」という共通認識の醸成を目的に実施しており、コロナ禍で３年ぶりとなった今回は「新たな価値をともに創るKYUSHU（九州）を目指して」を統一テーマとして、沖縄県那覇市にて開催。参加者の安全確保に努めた上で、２日間にわたる討論を行った。

１．開会式・基調講演・分科会



広瀬共同議長による開会挨拶

冒頭、九州地域戦略会議の共同議長である広瀬勝貞九州地方知事会長（大分県知事）と倉富純男本会会長による開会挨拶、続いて、開催地である沖縄県の玉城デニー知事による歓迎の挨拶があった。

続く基調講演では、デジタル大臣・行政改革担当大臣・内閣府特命担当大臣（規制改革）（当時）の牧島かれん氏より「日本が目指すデジタル社会」と題してご講演いただいた（本誌10ページに講演要旨を掲載）。

その後、４つの分科会に分かれ、それぞれのテーマの下で活発な意見交換が行われた。


分科会での議論

２．全体会議

翌日の全体会議では、まず各分科会座長から前日の討議内容を踏まえ、以下のとおり報告があった。

〈各分科会報告要旨〉

第１分科会

「行政と民間・経済界の連携による移住・関係人口の促進」

（座長：山口純哉　長崎大学経済学部准教授）

○移住人口の拡大は、官民で連携しながら取り組んでいく課題であり、民間企業でも「自分ごと」として認識する必要がある。

○関係人口の拡大には、行政など受け入れ側の取り組み（まちづくり）はもとより、民間企業による多様な働き方の実践もポイント。その入り口として、ワーケーションは活用すべき。

○個人の尊重やWell-Being、新しい価値創造などに重点が置かれるニューノーマル時代において、人が集まる仕組みづくり、「コミュニティ」が、地域の豊かさをはかる重要なキーワードとなり得る。

第２分科会

「新しいシリコンアイランド九州の創造に向けて」

（座長：岩上徹　九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会会長）

○世界的に半導体需要が高まる中、台湾の半導体製造大手「TSMC」の熊本進出を契機に、九州内の半導体関連産業のさらなる集積や関連人材の育成・確保等について、最新動向の事例発表や意見交換を行った。

○関連分野を取りまとめた「産業クラスター」形成が重要であり、九州経済産業局や当協議会の取り組みを踏まえながら、各県の施策を九州全体で積極的に展開すべき。
○全国レベルのノウハウを活用した人材育成力の向上が重要であり、今年３月に設立した「九州半導体人材育成等コンソーシアム」に、日本トップクラスの大学が参画するよう、産学官が一体となって取り組む。
○今回のTSMCの進出は、九州経済にとってまたとないチャンスであり、産業クラスター形成や人材育成など、九州各県の取り組みを有機的につなげることで、その効果を高めたい。

第３分科会

「新しい資本主義を考える～九州における成長と分配の好循環の実現に向けて～」

（座長：青柳俊彦　九州経済同友会代表委員）

○「失われた30年（経済活動と賃金の低迷）」から脱却するために、政府の対策を待つまでもなく、成長を実現し、貧困の拡大を食い止める必要がある。課題認識の共有化を図るとともに、産学官による解決に向けた取り組みのあり方を検討した。
○経済・賃金の低迷からの脱却には、DX/デジタル化による生産性向上が必要。また貧困・格差の解消には教育が課題。特に若者が教育の機会を失うことがないよう、優秀な人材を地元に惹きつけるためにも、奨学金の返済免除やベンチャー育成など、九州全体で若者を支え合う仕組みが重要。
○DX推進と人への投資を同時に進めること。新しい資本主義とは、ある意味、相反するものをクリアしていくことであり、産学官が知恵を絞り、さらなる連携を図ることが必要。

第４分科会

「心の豊かさを成長につなぐ“幸せコミュニティ”の実現に向けて」

（座長：池内比呂子　九経連理事・ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会副委員長）

○主観と客観の幸せのギャップを埋める「“幸せコミュニティ”指標」と、デジタル等を活用した広域での連携を実現する「スマートリージョン構想」の概念を共有し、「幸せコミュニティ九州」の実現に向け、産官学が一体となって取り組むためのキックオフとして議論を行った。
○人材を九州に惹きつけ、心の豊かさ/Well-Beingを九州の発展につなげるには、九州のポテンシャルを活かし、暮らしやすく、幸せを享受できるコミュニティを実現することが不可欠。
○そのための、オール九州の具体的な取り組みとして、「女性活躍を中心としたダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」の取り組みや、九州版デジタル田園都市国家構想となる「スマートリージョン構想」を推進すべき。



全体会議

以上の各座長からの報告の後、会議参加者を交えて活発な質疑応答や意見交換が行われた。

最後に、全体会議座長を務めた倉富会長が「①九州全体での戦略的なシリコンアイランド創造（半導体関連産業クラスター、教育・人材育成）②関係人口増につながる九州ならではのコミュニティづくり（DXにもつながるワーケーション、女性活躍推進団体との連携）③そのためのデジタル基盤整備（データ活用を含む生産性向上、データ連携）を九州地域戦略会議で取り上げ、具体化を進めたい」と総括し、２日間のセミナーを終了した。

【経営管理室　森山】

九州将来ビジョンと“幸せコミュニティ”の共有と意見交換を行う

と　き　8月5日（金）
ところ　那覇市・沖縄ハーバービューホテル
出席者　105名

第15回沖縄連携フォーラム

今回のフォーラムでは、「九州将来ビジョンと“幸せコミュニティ”」をテーマに、幸せな地域社会実現に向けた長期ビジョンによる地域の競争力向上と経済成長について、九州と沖縄の双方から発表を行い、共有、意見交換を行った。



1．沖縄連携フォーラムの概要

本フォーラムは、1991年から始めた九経連沖縄会員企業の懇談会を前身としており、九州・沖縄両地域の経済人の交流・親睦と相互理解を図ることを目的に2008年から開催している。その後2010年から、沖縄県経済団体会議※との共催体制とし、九州と沖縄の連携強化を目的に、双方の経済人が広く交流する場としての役割を果たしている。

※沖縄県経済団体会議は、以下の12の団体により構成。

沖縄県商工会議所連合会／沖縄経済同友会／沖縄県建設産業団体連合会／沖縄県経営者協会／沖縄県工業連合会／沖縄県商工会連合会／沖縄県中小企業団体中央会／沖縄観光コンベンションビューロー／沖縄県農業協同組合中央会／沖縄県漁業協同組合連合会／沖縄県情報通信関連産業団体連合会／沖縄県中小企業家同友会

2．主催者挨拶

冒頭、**石嶺伝一郎沖縄県経済団体会議議長（沖縄電力㈱相談役）**より「沖縄は、コロナの感染拡大が止まらず、経済が甚大な影響を受けている。県民が安心・安全な暮らしや幸せを感じる社会がいかに大切であるか身にしみて感じており、“幸福感”のある生活の実現はいつの時代でも共通する目標である。沖縄は今年本土復帰50年を迎えた。県民所得、生産性といった課題が山積しているが、県民生活の質を高め、県民が豊かさや幸せを実感できる社会の実現を目指したい。今回のフォーラムに大きな期待を寄せている」との挨拶があった。

続いて、**倉富純男九経連会長**が挨拶し、「昨年、“九州将来ビジョン2030”を発表し、今年、ビジョン推進のKPIとして“幸せコミュニティ”指標を策定した。豊かさの実感を目に見える形で表し、九州・沖縄のアドバンテージを内外にアピールしていきたい。九州・沖縄に住んでいる人は幸せだなと思ってもらえるコミュニティを育み、地域の競争力を高めるべく、コロナ禍からのV字回復を目指して、中長期的な目線で将来の種まきに取り組まないといけない。沖縄と九州が協力し、経済界として実行力を発揮していきたい」と述べた。

3．九州と沖縄からの発表

“幸せコミュニティ”に関連し、九州と沖縄から4名が発表を行った。

まず、**平井彰九経連専務理事**が、（直前に開催された）九州地域戦略会議夏季セミナーと

「幸せコミュニティ」について報告した。「九経連は、Ⅰ. 成長エンジン Ⅱ. 幸せコミュニティ Ⅲ. 自立型広域アイランドの３つのありたい姿を目指し、具体的活動に取り組んでいる。その活動を実行することで客観的にも主観的にも『幸せ』を実感できる地域社会を目指す。九州地域戦略会議夏季セミナーでは、『幸せコミュニティ九州』実現のアプローチとして、①企業やそこで働く人の幸せ ②アンフェアをなくす男女共同参画 ③DXを軸とした九州の広域連携の３つを論点として議論した」と紹介し、その内容を説明した。

続いて、**池内比呂子九経連理事（㈱テノ. ホールディングス社長）**より「ジェンダー平等社会実現に向けて」と題し、九経連のダイバーシティの取り組み、ならびに経営におけるジェンダー主流化実現のためのアクションについて発表を行った。「ESG投資やSDGs達成といった視点においてもジェンダー平等は欠かせない要素であり、女性活躍を推進するためには『家族環境、雇用環境、地域環境』の３つを連携させながら支援していく必要がある」と指摘。九州・沖縄の各県が連携して取り組んでいきたいとした。

次に、**石丸修平九経連行財政委員会企画部会長（九州大学客員教授）**より「九州スマートリージョン構想（仮称）」と題して、九州地域をより安心・安全な社会にしながら、いかに成長へ結びつけるかについての構想を発表した。九州が一体となり、①官民連携のサービスモデル構築 ②データ連携基盤整備 ③広域連携・行政の仕組み構築を行い、九州全域でのスマートリージョンを目指すことを説明した。

最後に、**古波津昇沖縄県工業連合会会長（拓南製鐵㈱会長）**が、「ダイバーシティ拓伸会の取り組み」と題して、拓南グループにおける①組織改革 ②女性活躍 ③ダイバーシティの取り組みについて報告した。「（同社は）かつては作業環境が厳しい『男職場』で、女性は一般事務中心であった。そこで、職務遂行に男女の別なく、女性の能力活用の幅を広げるべく、20年前から倉庫管理、生産管理、品質管理等の分野にも女性を配属し、ダイバーシティを推進している。沖縄県ワーク・ライフ・バランス企業認証を受け、女性に活躍してもらう環境を整えるため、育児休暇取得なども積極的に推進している」等の話があった。

４．意見交換

その後、**大嶺満九経連副会長（沖縄電力㈱会長）**が座長となり、参加者との意見交換を行った。参加者から、“幸せ”について「沖縄でも『沖縄県民総幸福度』をつくり課題解決、将来の成長発展に取り組んでいる。沖縄県『新・沖縄21世紀ビジョン』の中で“安全・安心で幸福が実感できる島”を掲げており、連携していきたい」等の意見があった。また、九州ジェンダーギャップ指数について、沖縄のレベル値が高いことに触れて、「ゆいまーる（相互扶助）精神が根底にあるのではないか」といった感想も含め、活発な議論が交わされた。

５．閉会挨拶

最後に、**大嶺座長**が「コロナやロシアのウクライナ侵攻等、今まで予想もしていなかったことが起き、経済は混迷を深めている。こうした事業環境の急激な変化に対処するカギの一つが『ダイバーシティ』である。とりわけ女性活躍は、九州・沖縄の豊かな地域社会実現のために重要かつ必要な取り組みである。また、DXの概念を取り込んだ九州スマートリージョン構想は、新たな価値創造と成長の循環の基盤になるものと考える。これらについて、沖縄と九州の経済界が連携し、取り組んでいきたい」と挨拶を行い、締めくくった。

フォーラム終了後は懇親会を開催し、沖縄と九州の参加者相互の交流、親睦を深めた。

【地域政策部　姉川】

日誌 8月

1日（月） [大分市・レンブラントホテル大分]
東九州自動車道建設促進地方大会
出席者：約300名

福岡、大分、宮崎、鹿児島の４県と北九州市で組織する東九州自動車道建設促進協議会（会長：河野俊嗣・宮崎県知事）と東九州軸推進機構（会長：倉富純男・九経連会長）の共催により、東九州自動車道建設促進地方大会が開催された。

河野知事および倉富会長による主催者挨拶、来賓挨拶、各県知事および市長アピールのほか、沿線住民代表による意見発表などがあり、東九州道の早期全通等を実現するべく大会決議を採択した。

3日（水） [福岡市・電気ビルみらいホール（Web併催）]
第７回九州・大学発ベンチャー振興実践会議
出席者：83名

九州・沖縄地域の大学、産業界、地銀・VCが連携し、大学シーズの速やかな実用化、産学協力、オープンイノベーション推進等により大学発ベンチャーの育成・振興を目指す「九州・大学発ベンチャー振興会議」の事前会議である実践会議を開催した。

（国研）科学技術振興機構（JST）の事業「PARKS」との連携についての説明の後、今年度大学提出シーズ24件について大学側（13大学）から、企業ニーズ22件について企業側（11社）からそれぞれ説明があった。例年通り、提出シーズについて円滑にギャップ資金を付与する作業、企業ニーズに対する大学側の関心表明を９月まで行うことを確認した。

4日（木）～5日（金） [那覇市・ロワジールホテル那覇]
九州地域戦略会議「第19回夏季セミナー」

※本誌２～３ページ「活動報告」に詳細を掲載

5日（金） [那覇市・沖縄ハーバービューホテル]
第15回沖縄連携フォーラム

※本誌４～５ページ「活動報告」に詳細を掲載

5日（金）～6日（土） [佐賀市・ホテルニューオータニ佐賀]
九州デジタル経営塾in佐賀
出席者：42名

企業経営のデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む経営層を対象とした「九州デジタル経営塾」に、佐賀県内等の企業22社24名が参加し、２日間の合宿形式で開催した。

㈱アイ・ティ・アールの内山悟志会長の講演「デジタル化の本質と注目すべき実践施策」に始まり、㈱DXパートナーズの村上和彰代表取締役と徳永美紗アドバイザリーパートナーによるワークショップ「『顧客価値起点×デジタル』で皆さんのビジネスを再構築してみましょう！」の受講を通して、DXで実現を目指すデジタル経営の要諦のエッセンスを体験・習得した。

8日（月） [福岡市・電気ビル共創館]
第１回九州MaaSプロジェクト研究会
出席者：74名

次世代型移動サービス「MaaS（マース）」の導入に向けて、九州・山口・沖縄の９県と政令市、鉄道・バスなどの交通事業者48名の委員で構成する官民組織「九州MaaSプロジェクト研究会」を発足し、第１回研究会を開催した。

平井彰九経連専務理事による開会挨拶の後、国土交通省九州運輸局交通政策部交通企画課の丹下涼課長より「交通・観光の現状と九州MaaSへの期待」と題し、九州におけるMaaSの取り組み状況や交通・観光の課題等についてご講話いただいた。その後、参加者による活発な意見交換が行われた。

19日（金） [Web開催]
本格焼酎・泡盛ネットワーク（kura Master）セミナー
出席者：105名

九州経済産業局、内閣府沖縄総合事務局、九経連、九州経済国際化推進機構は、本格焼酎・泡盛輸出促進ネットワーク事業の一環として、フランスで日本産酒類の普及・啓発に取り組むKura Master（パリ市公認協会）の方を講師に、フランス・EU市場における本格焼酎・泡盛の輸出拡大の現状や今後の展望に関するセミナーを開催した。

本セミナーでは、本格焼酎・泡盛部門の審査委員長であるクリストフ・ダヴォワンヌ氏が、フランスにおける焼酎・泡盛の魅力などを取り上げ、今回初めて九州の焼酎蔵訪問を行った感想やブランディングなども報告。Kura Masterの活動や焼酎輸出の可能性について紹介いただいた。

22日（月） [福岡市・九経連会議室]
環境省九州地方環境事務所と九経連との連携協定締結式
出席者：17名

脱炭素・自然共生・循環型社会の実現を目指す「地域循環共生圏」の構築に向けて、本会は環境省九州地方環境事務所と連携協定を締結した。今後、九州域内の脱炭素先行地域における自治体・企業・地域金融機関のマッチング支援、阿蘇くじゅう国立公園を舞台とするサイクルツーリズムの推進、30 by 30等生物多様性保全、ESG地域金融の推進などに連携して取り組むこととしている。

※次号（11月号）にて詳細を掲載予定

DIARY

23日（火）［Web開催］

地域SECUNITYセミナー
出席者：93名

サイバー被害が事業継続に影響を及ぼす事案が報告される中、中小企業向けの「サイバーセキュリティ対策の基本」について、「地域SECUNITY活動」を牽引している専門家や中小企業の方々によるセミナーを開催した（主催：九州経済産業局、IPA、九経連）。

九州大学の小出洋教授、日本ネットワークセキュリティ協会の前田典彦調査研究部会長、㈱ミズの溝上泰興代表取締役にそれぞれご講演いただいた後、講演者３名によるクロストークでは「経営層こそセミナーに参加すべき」の意見が出るなど、より実態に迫った内容になり、経営層の意識向上にもつながった。

23日（火）［熊本市・熊本ホテルキャッスル］

熊本地域委員会
出席者：47名

甲斐隆博委員長（㈱肥後銀行会長）の開会挨拶に続き、倉富純男会長が挨拶。続いて、九経連事務局から「九州将来ビジョン2030と『幸せコミュニティ』指標」ならびに「九州ジェンダーギャップ指数」等についての報告と説明を行った。その後、㈱テノ.ホールディングスの池内比呂子社長（本会理事）より「ジェンダー平等社会実現に向けて」と題し、ご講演いただいた。

会議終了後、着席による懇親会を開催し、熊本地域の会員相互ならびに倉富会長との親睦を図った。

26日（金）［東京都内］

第１回九州応援団
出席者：12名

九州出身および九州での勤務経験のある中央官庁の幹部職員で構成する「九州応援団」の今年度第１回会合を開催した。

当日は、倉富純男会長が「国へ意欲をしっかりと伝え、九州にやらせてみたいと感じていただくことが大事。日本を元気にする九州モデルを発信していきたい」と挨拶。その後、事務局より直近の動きを報告し、意見交換を行った。

今後も定期的に会合を開催し、各省庁への相談窓口として適宜アドバイスをいただくこととしている。

30日（火）［Web開催］

第１回サイバーセキュリティセミナー
出席者：180名

今年度の第１回目のセミナー「事業継続のためのサイバーセキュリティ対策」をオンラインにて開催。第１部では㈱ラックの三宅康夫氏より「最新のサイバー攻撃事例について」と題し、被害の事例とその対策についてご講演いただいた。第２部では九州における具体的な取り組み事例について、IPAの平原隆氏、㈱BCCの奥新一郎氏、三井物産セキュアディレクション㈱の関原優氏の３名にご講演いただいた。

今回は中小企業やサプライチェーン企業の方にも多くご参加いただき、サイバーセキュリティ対策に関する意識醸成の機会となった。

※次号（11月号）にて講演要旨を掲載予定

30日（火）［鹿児島市・城山ホテル鹿児島］

鹿児島地域委員会
出席者：47名

上村基宏委員長（㈱鹿児島銀行会長）の開会挨拶に続き、倉富純男会長が挨拶。続いて、九経連事務局から「九州将来ビジョン2030と『幸せコミュニティ』指標」ならびに「九州ジェンダーギャップ指数」等についての報告と説明を行った。次に、㈱テノ.ホールディングスの池内比呂子社長（本会理事）より「ジェンダー平等社会実現に向けて」と題し、ご講演いただいた。

その後、升本喜之事務局長が、九経連と指宿市が今年７月に締結した包括連携協定など、九経連の鹿児島地域での取り組みについて報告し、終了した。

31日（水）［大分市・ホテル日航大分オアシスタワー］

大分地域委員会
出席者：37名

後藤富一郎委員長（㈱大分銀行頭取）の開会挨拶に続き、倉富純男会長が挨拶。続いて、西部ガスホールディングス㈱の髙山健司取締役常務執行役員より「企業における多様性推進とその必要性について」と題し、ご講演いただいた。次に、九経連事務局から「九州将来ビジョン2030と『幸せコミュニティ』指標」ならびに「九州ジェンダーギャップ指数」等についての報告と説明を行った。その後、大分事務局から、2021年度事業報告ならびに2022年度事業計画案が報告された。

最後に、倉富会長と参加会員との意見交換を行い、九経連活動へ反映させることとした。

31日（水）［東京都・国土交通省他］

下関北九州道路中央要望活動
出席者：14名

下関北九州道路建設促進協議会（会長：倉富純男・九経連会長）、下関北九州道路整備促進期成同盟会（会長：村岡嗣政・山口県知事）などの関連団体が、国土交通省、財務省、自由民主党、公明党を訪れ、下関北九州道路の早期実現に向けて要望活動を行った。

西九州新幹線開業を契機として西九州地域の活性化を

2022年９月23日、西九州新幹線（武雄温泉駅～長崎駅）が開業した。所要時間が従来より約30分短縮され、博多・長崎間は最速１時間20分となる。この新幹線開業を契機に、西九州地区と福岡・中国・関西との交流が拡大し、西九州ひいては九州全体のさらなる振興と発展につながることが期待されている。
今回、九州旅客鉄道㈱広報部より、西九州新幹線の概要やキャンペーンの様子、今後の展望等についてご紹介いただいた。

●西九州新幹線開業

９月23日、西九州新幹線（武雄温泉駅～長崎駅）が開業しました。

この西九州新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき1973年に「整備計画」が決定された九州新幹線西九州ルート（福岡市・長崎市間）のうち、今回開業した武雄温泉・長崎間の路線名称です。

武雄温泉・長崎間は線路延長約66kmをフル規格（標準軌）により整備し、武雄温泉駅で博多・武雄温泉間を運行する在来線特急列車「リレーかもめ」と同じホームで乗り換えを行う「対面乗換方式」により運行します。



N700S「かもめ」

西九州新幹線を運行する「かもめ」の車両は、東海道・山陽新幹線にも導入されている「N700S」をベースに「九州らしいオンリーワンの車両」を目指して作られています。そのコンセプトは「西九州から吹く暖かくて優しい風を世界へ届ける」。

「ドーンデザイン研究所」の水戸岡鋭治氏がデザインを手がけ、エクステリアにはJR九州のコーポレートカラーである赤を配色、シンボルマークやロゴを配置しています。また、インテリアデザインでは和洋折衷、クラシックとモダンが組み合わされた、懐かしくて新しい空間を表現しています。



唐草模様をあしらったシート

●開業効果を最大にするために

開業を地域と一体となって盛り上げ、その効果を最大にするため、自治体等とも協力しながら各種イベント等を実施しています。その一つとして実施したのが「かもめ楽団」です。

「かもめ楽団」は西九州新幹線「かもめ」の誕生を祝っていただける方を全国から募り、集まった方を「楽団員」、また地元の高校の吹奏楽部員や地元で演奏活動をしている方を「かもめキャプテン」として演奏をサポートしていただき、「HAPPY BIRTHDAY」の歌を全員で歌うというイベントです。

３つの港、また５つの新幹線駅で多くの方にかもめの誕生を祝っていただきました。



「かもめ楽団」の様子

また10月からは、JR北海道から九州まで全国JR６社が現地の自治体や旅行会社などと協力し、地域の新たな魅力を発信し誘客する観光キャンペーン「佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン」が始まります。これにより、全国各地の駅に佐賀や長崎を紹介するポスターが掲示され、その魅力が発信されます。その結果、全国から多くの旅行客が両県を訪れることが期待されます。

JR九州でも「西九州開店」と銘打った独自のキャンペーンを実施、さらに多くの方に西九州新幹線そして西九州エリアの魅力を発信していきます。

●長崎MaaSスタート

新幹線等を利用して長崎にお越しの方により便利に観光等を楽しんでいただけるよう、８月２日より鉄道、路面電車、バス、レンタカーなど当社を含む９事業者が連携してMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）が長崎県全域を対象にスタートしました。

さまざまなモードでの移動手段を経路検索アプリ「my route」により検索、さらに検索結果から「JR九州インターネット列車予約」をはじめ、バス、航空券、カーシェアやレンタカー利用・予約サイトへシームレスに遷移できるようになり、現在地から目的地までの検索、予約、決済をスムーズに行うことができるようになりました。

●開業効果を線から面に

新幹線開業が場所と場所をつなぐ「線」での効果にとどまらず、沿線一体を含めた「面」として効果を発揮できるよう、新たな施設の開発や列車の導入も実施します。

西九州新幹線開業にあわせて、２年ぶりに新たなD＆S列車（デザイン＆ストーリー列車）「ふたつ星4047」を導入しました。

佐賀・長崎は海に囲まれたエリアです。「ふたつ星4047」は、武雄温泉駅から長崎駅までは有明海沿いの長崎本線を、また長崎駅から武雄温泉駅までは大村湾沿いを走る大村線を運行し、それぞれ異なる表情を見せる「ふたつ」の海を車窓に見ることができる列車です。またビュッフェやラウンジを備え、車内での時間をお楽しみいただけます。

この列車にあわせ、片道は西九州新幹線、片道は「ふたつ星4047」をご利用いただける「かもめぐるりんきっぷ」の販売も行っています。



ふたつ星4047

長崎駅周辺のまちづくりの拠点となる「新長崎駅ビル」は、概ね１年後となる2023年秋の開業を目標に「新幹線開業を契機につくる国際観光都市長崎の陸の玄関口」のビジョンのもと商業、ホテル、オフィス、駐車場などを備えた施設となる計画です。



新長崎駅ビル（2023年秋開業予定）

西九州新幹線の開業を契機に、生活と観光の両面での開業効果を高めて、沿線のみならず、佐賀県、長崎県の各地に効果を拡大させるため、今後とも地域の皆さまの生活利便性の向上、魅力ある観光ルートの新たな構築に取り組んでまいります。皆さまもぜひ、西九州エリアへお運びください。

《問い合わせ先》

九州旅客鉄道株式会社　広報部

TEL：092-474-2541

講演要旨

日本が目指すデジタル社会

（2022年８月４日（木）九州地域戦略会議「第19回夏季セミナー」での講演）

デジタル大臣・行政改革担当大臣
・内閣府特命担当大臣（規制改革）
※セミナー開催時
牧島　かれん



１．デジタル庁が果たすべき役割

これからの経済成長には、デジタルの力を十分に活かせる社会制度への転換が必要であり、規制改革や行政組織の構造改革を加速的に進める司令塔として、デジタル庁は発足した。

「行政の無謬性※神話」からの脱却をテーマに、スタートアップやアジャイルに焦点を当て、デジタル時代にふさわしい、フラットでオープンな組織づくりを目指す。

「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」がデジタル庁のミッション。官民融合で、バックグラウンドの異なる多様なスタッフが集まる組織だからこそ、ミッションやビジョン、バリューを自分たちで作り上げ、大切にしている。

住民記録、地方税、介護、福祉等の地方自治体の基幹業務システムについて、ガバメントクラウドを活用した標準システムへの移行を2025年までに実施予定。デジタル化による効率化で生まれる時間や人材を、本来の行政がなすべき役割、やりたかった住民サービスへ集中的に再配置するために、ぜひ活用してほしい。

※無謬性…理論や判断に間違いがないこと。

２．デジタル臨時行政調査会（デジ臨）

同種の規制を一括して見直す「面の改革」、技術の進展に即した「テクノロジーベースの改革」、未来の法令も念頭に置いた「将来の改革」の３つの特徴を持った改革を進めている。

日本に４万件以上ある法令や各種告示をチェックし、デジタル化を阻害している規制５千項目を類型化、既に４千項目は見直しの方向性を示した。残りの１千項目も年内に確定させ、今後３年間の集中改革期間の中で、全ての法改正をやり切る。

昭和・平成で積み上がったアナログ規制を一掃する、時空を超えた大きな挑戦であり、G7議長国のドイツでも高く評価された。

あわせてセンサーやドローン、AI診断、ビッグデータ分析などを網羅したテクノロジーマップを整備予定。特定の規制を代替できるデジタル技術がカタログ化されることで、技術を有するスタートアップ企業にもチャンスが生まれ、新たなデジタル市場の創出につながることを期待している。

３．デジタル田園都市国家構想（デジ田）

自由で活力ある暮らしとビジネスの実践を両立できるチャンスは、地方にこそあり。デジタル実装を通じて、地域の課題解決・魅力向上の取り組みを推進し、デジタル田園都市国家構想の実現を目指す。

課題の一つは地方創生の担い手不足。地域の課題解決に挑戦したいと考える、多様でクリエイティブな人材を呼び込み、交流、議論できる密度の高い空間づくりを提案、応援したい。

もう一つの課題は、地方創生プロジェクトを作るだけではなく、持続可能な地域産業へと育てること。

人口減少局面において、縮小する需要にあわせた供給体制、共助の連携基盤をデジタル技術で再構築し、Well-beingの向上に向けたまちづくりの好循環を生み出したい。

日本では、地域の基礎データは各自治体が所有している。自治体間でデータを上手につなぎ合わせる必要があるし、データ連携基盤の開発を、県境をまたいで九州全体で行うことは大きな意義がある。

事業化する際の指標となり得るWell-being指標や、データ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取り組みを支援する「デジ田推進交付金（TYPE２/３）」も積極的に活用し、新たな価値の創造に向けて九州から、デジタル実装の九州モデルが発信されることを期待している。

Member Introduction
会員紹介

株式会社セールスフォース・ジャパン

＜2021年４月14日入会＞

法人紹介

Salesforceは、デジタル化が加速する時代に企業と顧客を近づけるCRM（顧客関係管理）のグローバルリーダーです。1999年に米国サンフランシスコで設立されたSalesforceは、あらゆる規模と業界の企業がクラウド、モバイル、ソーシャル、音声、人工知能などの強力なテクノロジーを活用し、全く新しい方法で顧客とつながるためのツールを提供しています。私たちはお客様から信頼されるアドバイザーとなることを目指し、顧客中心のビジネスへの変革を、共に実現したいと考えています。

Salesforce Customer 360（さんろくまる）は、企業のデジタルトランスフォーメーションを支援する当社のビジョンです。そして、セールス、サービス、マーケティング、コマース、IT、分析などの部門を連携させる統合型CRMプラットフォームであると同時に、顧客に関する信頼できる唯一の情報源（SSOT：Single Source of Truth）です。これにより各部門は、顧客を一元的に見ることができると同時に、今や顧客が全てのブランド企業に対して期待するようになったインテリジェントでパーソナライズされた体験を提供し、長期的に信頼される関係を構築することができるようになります。

Salesforceは２兆件以上のB2BおよびB2Cトランザクションを支え、15万社以上の企業と、何百万人ものトレイルブレイザー（Salesforceを活用し、イノベーションを推進、キャリアを拡大、ビジネスを変革、コミュニティへの還元を行う個人やその組織）を支えます。

Salesforceでは、「信頼」「カスタマーサクセス」「イノベーション」、全ての人類の「平等」「サステナビリティ」という、５つのコアバリューを掲げています。Salesforceは、フォーチュン誌の「世界を変える企業」の一社に選出されるとともに、12年連続でフォーチュン誌の「世界で最も働きがいのある会社」の一社に選ばれています。

法人概要

法人名	株式会社セールスフォース・ジャパン
設立	2000年４月
代表者	代表取締役会長 兼 社長　小出 伸一
事業内容	クラウドアプリケーションおよびクラウドプラットフォームの提供
従業員数	約3,590名（2022年１月末現在）
所在地〔東京オフィス〕	〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-1-3 日本生命丸の内ガーデンタワー（Salesforce Tower）
電話番号	03-4222-1000
ホームページ	https://www.salesforce.com/jp/



代表取締役会長 兼 社長
小出 伸一

セールスフォース・ジャパンでは九州のお客様へのご支援体制を強化するため、2018年に福岡市に西日本オフィスを設立しました。以来、企業規模や業種業態を問わず、地域に密着して顧客管理・営業支援などのクラウドサービスを九州地域のお客様に提供しております。

お客様とその先にいらっしゃる顧客との接点強化に向けてデジタルを活用したご支援をさせていただいており、企業の皆様のみならず自治体・教育機関・非営利団体の皆様にもご活用いただいております。

今後も九州地域での人材採用を進め、地域の皆様のデジタルトランスフォーメーション推進のご支援をさせていただく所存です。



Salesforce Tower Tokyo

Member Introduction
会員紹介

<2021年４月15日入会>

法人紹介

ＦＰＴジャパンホールディングス株式会社は、グループ企業全体で社員３万６千名が在籍し、2022年で創立34周年を迎えるベトナム最大級のＩＣＴ企業「ＦＰＴコーポレーション」において、海外に特化しＩＴ事業を担う「ＦＰＴソフトウェア」の日本法人です。ベトナムと日本両国の文化・経済・知識の交流の懸け橋となり、日本のお客様に最高のバリューを提供することを目的とし、2005年に設立されました。また、ＲＰＡ、ブロックチェーン、ＡＩ、クラウド、ＩoＴ、ビッグデータ分析などの最新テクノロジーを活用したサービスやソリューションを通じて日本のお客様に貢献してまいりました。

さらに、ベトナムへのシステム開発アウトソーシング事業を中心に幅広くビジネス展開しており、このオフショア活用によって優れたコストパフォーマンスでのシステム開発を日本のお客様にご提供しております。また、日本では人口減による人手不足も相まって、ＩＴ分野でのエンジニア不足は深刻な問題になっていますが、ベトナムでの豊富な人材、そして多様なスキルや高い技術力を持ったエンジニアにより、高品質なシステム開発を実現することで、日本のお客様企業に大きく貢献できているものと自負しております。

2016年に福岡事業所を開設し、業務拡大に伴い昨年末に約３倍のフロア面積の新事業所に移転しました。さらに今年は沖縄に次いで国内２拠点目となるニアショア開発センターを福岡に設立いたします。近い将来には500名、また1,000名規模のエンジニアを備える福岡開発センターを目指して、福岡経済へ貢献するとともに、九州をはじめ日本のお客様企業のビジネス成長に向けて、さらに貢献してまいりたいと存じます。

法人概要

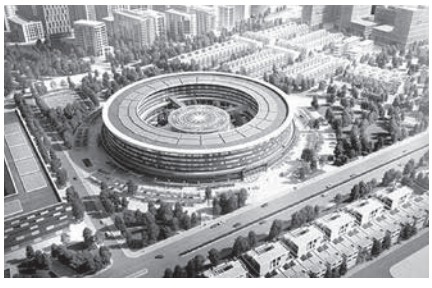
法人名	FPTジャパンホールディングス株式会社
設立	2005年11月13日
代表者	代表取締役社長　ド・ヴァン・カック
事業内容	システム開発、システム運用、マイグレーションサービス、テクノロジーサービス、エンジニアリングサービス、BPO
従業員数	1,750名（2022年１月現在）
本社所在地	〒105-0011　東京都港区芝公園１-７-６ KDX浜松町プレイス６階
電話番号	03-6634-6868
ホームページ	https://www.fpt-software.jp



代表取締役社長
ド・ヴァン・カック

グローバルにビジネス展開する企業として、国際社会全体の目標である「持続可能な社会の実現」への貢献を目指します。「持続可能な社会の実現」には、ＤＸを通して、働き方や社会の構造を新たな仕組みへ変換することが重要です。

コンサルティングやシステムインテグレーションのパートナー企業様とともに、毎年目覚ましい成長を遂げるベトナム企業の強みを最大限に発揮し、お客様の課題を早期に解決していくことで、日本のお客様企業の発展と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



FPT Complex – ダナン ソフトウェア開発センター

Member Introduction
会員紹介

＜2021年５月24日入会＞

法人紹介

株式会社Ｌ is Ｂ（エルイズビー）は、現場の業務改善やデジタル化を支援する企業として2010年に設立。東京都に本社、徳島県に開発拠点を構え、お客様の声に耳を傾けながら、よりよいサービスを生み出すために活動しています。現場の声に耳を傾けながら進化を遂げているのが、当社がご提供をする現場のチャット「direct／ダイレクト」です。

「direct」は、立って働く現場を持つフィールドワーカーのために開発したビジネスチャットとして、建設業を中心に3,000社を超える企業の方々にご利用いただいています。文字だけでなく、写真・ファイルなどを使った現場の情報共有や作業指示で、迅速かつ円滑なコミュニケーションを実現できます。誰が読んだかまでわかる「既読・未読」機能を備え、緊急時の連絡手段としてもご利用いただけます。また、チャット機能に加え、誰がいつまでに作業するのかがわかる「タスク」をはじめ、「スケジュール」「掲示板」のアプリと連携しています。

「direct」は、チャットの中で会話をするロボット＝「チャットボット」を併用いただくことで、報告書作成や勤怠管理などの定型業務の自動化を実現します。これにより従来までパソコンを開いて行っていた業務を、スマートフォンで、スキマ時間にできるようになります。一般的なビジネスチャットを概念を超える業務効率化ツールとして、DX推進にお役立ていただけます。

さらに新たな取り組みとして、現場のDXをテーマにした情報メディア「現場DX研究所」を立ち上げ、DX推進を進めるお客様に向けてお役立ち情報を発信しています。何から始めればよいかわからないお客様からのご相談を無料で受け付けています。

九州エリアの企業様が抱えるDX課題を解決したり、ICTによって仕事のやり方を変えたり効率化を図っていくことで、現場のDX推進に貢献してまいります。

法人概要

法人名	株式会社Ｌ is Ｂ
設立	2010年９月29日
代表者	代表取締役社長　横井　太輔
事業内容	クラウドサービスの開発、提供および運営サポート／スマートフォン、タブレット、パソコンアプリケーション開発／Webシステム開発および構築サポート／デザイン開発（UI／UX、イラスト他）／サービス開発コンサルティング　他
従業員数	70名（2022年８月現在）
本社所在地	〒101-0032　東京都千代田区岩本町３-11-11　プルータスビル２階
電話番号	03-5812-4735
ホームページ	https://l-is-b.com/ja/


代表取締役社長　横井　太輔

我々は、現場チャット「direct／ダイレクト」を主なサービスとして、お客様の課題解決に役立つサービスをご提供しています。「お客様に寄り添う」ことに重きを置き、お客様からのご要望をもとに改善を進めていく定期アップデートのルールを設けており、お客様に応えることができるサービスへと日々進化させております。

私たちはお客様がいなければ、存続していない会社です。だからこそ、時代の流れや最新技術を常にキャッチアップしながら、お客様のご要望や課題に対して、最適な回答と解決策を提案する姿勢で、自社の強みである技術力・提案力を駆使し、世の中に貢献できる会社にしていきたいと考えています。



導入企業数は現在約3,000社以上となる現場向けチャット「direct」

沖縄観光通信

～ミス沖縄がおススメする沖縄観光情報～

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)



第40代沖縄観光親善大使ミス沖縄
クリーングリーングレイシャス
新垣佳菜江

皆さま、はいたーい！ミス沖縄クリーングリーングレイシャスの新垣佳菜江です。
今回は、沖縄本島南部の与那原町で行われる大綱曳についてご紹介いたします！
日々、YouTubeやFacebook、Instagramを通して、沖縄の魅力をお届けしております。ぜひチャンネル登録＆いいねをお願いします！

■「ミス沖縄公式YouTubeチャンネル」はこちら https://bit.ly/2Fa1tlW

新型コロナウイルス感染予防・拡大防止に取り組んでいます！

与那原大綱曳まつり

[沖縄県島尻郡与那原町字与那原832 (御殿山青少年広場)]

豊作祈願の神事として始まったといわれている与那原大綱曳（よなばるおおづなひき）は、那覇・糸満と並ぶ沖縄の三大大綱曳の一つであり、沖縄で一番華やかで力強い綱として有名です。440年余りの伝統を誇り、東西合わせて５トン、90メートルの大綱で綱の上に豪華な琉球衣装を身に着けた支度（したく）が乗って練り歩くさまは、龍が天に舞い上がるようだといわれ、与那原大綱曳の醍醐味で特徴ある雄雌のカナチが結合され、カナチ棒が入ると同時に綱曳が始まる姿は迫力満点です！

第23回ふるさとイベント大賞（2019年）では、内閣総理大臣賞を受賞しています。

昨年は新型コロナウイルスの影響により中止となっていましたが、今年は10月に開催が予定されていますので、ぜひその迫力を肌で体感していただければと思います。

◇与那原町の観光情報等はこちらから　https://yonabaru.okinawa/





今月のおススメ

マリンアクティビティ～SUP～

10月の沖縄は、天候が安定して穏やかな日々が続きます。この時期にピッタリなのが「SUP（サップ）」です。SUPとは「Stand Up Paddle-board（スタンドアップパドルボード）」の略称で、名前の通りボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進むアクティビティです。おススメの楽しみ方は、澄んだ海をボードの上に座って眺めること、そしてヨガをすることです。先日、地元・久米島で朝の時間帯にSUPをしましたが、透き通る穏やかな青い海の上で、ゆったりと流れる島時間に癒やされましたよ♪沖縄ではサンセットの時間帯やマングローブの中をSUPでめぐるツアーなどもございますので、今年最後の夏の思い出作りに体験してみてはいかがでしょうか。



ミス沖縄の活動についてはこちら

ミス沖縄　検索

沖縄観光情報についてはこちら

おきなわ物語　検索

皆さまへ沖縄の魅力をお届けいたします。

地域動向

九州・山口

山口 Yamaguchi



やまぐちまるごとスポーツフィールド！「手ぶら」で「気軽に」アウトドア体験！

山口県では、キャンプとアウトドアアクティビティを結び付け、「手ぶら」で「気軽に」楽しめるアウトドアスポーツツーリズム「スポーツフィールドやまぐち」を推進している。

今年度は、県内で開催されるアウトドアイベントなどにブースを出展し、子どもから大人まで楽しめる「アウトドア体験キャラバン」を実施する。

10月８日（土）、９日（日）に、山口きらら博記念公園で開催される「ゆめ花マルシェ2022」では、ピザやポップコーンなどのキャンプ飯作りや、フライングディスクを投げてパネルをねらうディスゲッターなどのニューアウトドアスポーツを体験することができる。

ほかにも「スポーツフィールドやまぐち」のホームページでは、県内のさまざまなアウトドアアクティビティを紹介している。



山口県の自然を感じながら、アウトドアアクティビティで身体を動かしてみてはいかがだろうか。

【スポーツフィールドやまぐちホームページ】
https://sportsfield-yamaguchi.com/

《問い合わせ先》
山口県スポーツ推進課　TEL：083-933-2435

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更になる場合があります。最新情報については、スポーツフィールドやまぐちホームページにてご確認ください。

福岡 Fukuoka



福岡県マインクラフトコンテスト開催中！

福岡県では、移住・定住の裾野の拡大につながる「関係人口」の創出・拡大に取り組んでいる。

若い世代をはじめ、より多くの方に福岡県に関心を寄せてもらうきっかけとする新たな取り組みとして、「福岡県マインクラフトコンテスト」を開催！

国内外の多くの方に楽しまれているゲームソフト「マインクラフト」を活用し、県内の建築物等、本県に関係した作品を制作いただき、特に優秀なものを表彰。

「課題部門」「政策部門」「自由部門」の３部門で作品を募集しており、コンテスト終了後には、優秀作品等を活用した「福岡ワールド」を制作して公開予定。

作品の応募受付は、10月31日まで。ぜひ、応募いただきたい。



《問い合わせ先》
福岡県政策支援課　TEL：092-643-3179

佐賀 Saga



佐賀が世界の舞台となる。「SAGAスタジアム」リニューアルオープン！

2024年開催のSAGA2024（ニーマルニーヨン）国スポ・全障スポを契機として整備が進む「SAGAサンライズパーク」の主要施設のひとつ、「SAGAスタジアム」が５月に全面リニューアルオープンした。

走路を９レーン化するなど、トラックやフィールドを全面改修したほか、雨天でも気にせずに走ることができる全天候型ウォーミングアップ走路やドーピング検査室などを新設。リニューアルにあわせて、国スポ・全障スポの開催に必要な「日本陸連第１種公認」を取得し、８月１日には「世界陸連クラス２」にも認定された。国際的な大会（オリンピック・世界選手権等の大会を除く）を開催できることとなり、世界新記録やアジア新記録などの国際的な記録が誕生したときにも速やかに記録が公認される、世界基準のスタジアムになった。

SAGAサンライズパークの整備もいよいよラストスパート。来年春には、スポーツやコンサートだけでなく、全国規模の総会や学会、展示会などビジネスシーンでも活用が期待される交流の拠点「SAGAアリーナ」もオープン予定だ。



「SAGAスタジアム」から生まれる感動を多くの方に体感いただきたい。

《問い合わせ先》
佐賀県SAGAサンライズパーク整備推進課
TEL：0952-25-7482

長崎 Nagasaki



９月23日開業！
西九州新幹線（長崎～武雄温泉）

９月23日、長崎駅と佐賀県の武雄温泉駅の間（約66km）を結ぶ、西九州新幹線が開業を迎えた。

これまで、博多～長崎間は在来線特急「かもめ」によって運行されていたが、開業によって、長崎～武雄温泉間は最高時速260kmのフル規格の新幹線で結ばれた。武雄温泉駅では、武雄温泉～博多間を運行する在来線特急列車と同じホームで乗り換えを行う「対面乗換方式」により運行され、博多～長崎間の所要時間（最速）がこれまでの１時間50分から１時間20分となり、30分短縮された。

開業にあわせ、「JR九州アプリ」を使用した県内21市町を巡るスタンプラリーが９月23日からスタート。スタンプの獲得数に応じて抽選で素敵なプレゼントが当たる。21市町には、西九州新幹線長崎県広報大使の長濱ねるさんの等身大パネルも設置されている。

また、10～12月にかけて、JRグループ・佐賀県・長崎県が共同で「佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン」を実施する。それに先駆けて、旅のコンパスをS（Saga）とN（Nagasaki）に向ける新たな旅の物語をウェブサイトで公開しているのでぜひご覧いただきたい。



《問い合わせ先》

長崎県新幹線対策課　TEL：095-895-2063

長崎県　新幹線　検索

熊本 Kumamoto



さかなクンとタイアップして、水俣・芦北地域の魅力発信！

熊本県と水俣市、芦北町、津奈木町は「水俣・芦北地域振興計画」に基づき、かつての著しい自然破壊から、美しい環境を取り戻した不知火海を活かして、地域の魅力向上に取り組んでいる。

その一環として、不知火海で「ヒメタツ」という新種のタツノオトシゴの発見に関わった「さかなクン」が、７月22日「みなまた・あしきたギョギョギョ大使」に就任し、この地域の新たな魅力の創出や全国に向けた情報発信等に取り組んでいく。

その第一弾として、さかなクンの公式YouTube「さかなクンちゃんねる」で、水俣・芦北地域の海の魅力をＰＲしている。

水俣・芦北地域の海で活躍されているユニークな方々とのお魚に関するクイズ対決や、さかなクンを中心に、水俣・芦北の関係者（ダイバー、環境の語り部など）との豊かな海を守る方法などをテーマにしたトークライブの様子などを配信中。

美しい不知火海や美味しい魚を懸命に守り、育てている地元の方々の様子をぜひご覧いただきたい。



©2010熊本県くまモン

来年度以降も、熊本県、水俣市、芦北町、津奈木町で連携して、さかなクンとタイアップした不知火海の魅力発信に取り組んでいく。

《問い合わせ先》

熊本県地域振興課　TEL：096-333-2180

大分 Oita



「ツール・ド・九州300日前イベント」日田にて開催！

11月12日（土）・13日（日）、日田市で開催される日田天領まつりにあわせて、「ツール・ド・九州300日前イベント」が開催される。「ツール・ド・九州」とは、九州・山口で新たに取り組む国際サイクルロードレース大会で、国内外のプロ選手の参加を予定している。第１回目の開催となる2023年に向け、大分、福岡、熊本の３県で準備が進められており、大分ステージは、日田市街地とオートポリスを結ぶルートでレースが行われる予定である。

300日前イベントは日田中央公園（予定）を会場に、「バーチャルサイクリング体験ブース」や「親子参加型自転車体験ブース」など、実際に自転車に乗り、ロードレースの醍醐味や楽しさを体験することができる。

また、今年10月以降、県内の道の駅でツール・ド・九州をＰＲするスタンプラリーを実施する。サイクリングにぴったりの「サイクル食」として認定された商品を購入するとスタンプがもらえ、スタンプを集めると豪華商品が当たる企画だ。

大会の開催を通じて、自転車活用の気運を盛り上げるだけではなく、九州・大分県にも風光明媚なサイクリングコースがあることを国内外の方々に認知してもらうことにより、観光地を自転車で巡る「サイクルツーリズム」にもつなげたいと考えている。



《問い合わせ先》

ツール・ド・九州　大分ステージ推進委員会

TEL：097-506-2168

https://tourdekyushu-oita.jp/

宮崎 Miyazaki

「九州・沖縄の翼」ソラシドエア就航20周年！

株式会社ソラシドエアは、今年８月１日に就航20周年を迎えた。

同社は宮崎市に本社を置く「県民の翼」として、2002年８月１日に「宮崎－東京」線を就航した。以来、数々の困難を乗り越え、現在では九州・沖縄と東京とを中心に結ぶ全14路線を展開し、「九州・沖縄の翼」として発展している。宮崎においても東京、名古屋、沖縄の３路線を運航しており、ビジネスや観光面において、なくてはならない航空会社となっている。

ソラシドエアは地元とのつながりを大切にしており、本県のブランド力向上にも積極的に協力している。2020年10月にポケットモンスターのナッシーが「宮崎だいすきポケモン」に任命された際には、機体にナッシーをラッピングした「ナッシーリゾートin宮崎号」を運航した（同機材は今年９月に運航を終了）。また、今年４月に宮崎市にオープンした「ソラシドエアサーフィンセンター木崎浜」へのネーミングライツ・スポンサーにも認定され、宮崎のサーフカルチャーの発展にも尽力している。

航空業界は新型コロナウイルス感染症による危機に直面し、いまだその影響から脱しているとは言えない状況である。ソラシドエアはソラチョク便（空陸一貫での高速小口貨物輸送サービス）など新しい取り組みをスタートさせたほか、今年10月には「北海道の翼」株式会社ＡＩＲＤＯ（エア・ドゥ）との共同持株会社を設立し、コロナ禍からの復活を掲げている。

今後とも、地元と共にある航空会社として、本県をはじめとした地域社会への貢献を果たしていきながら、「九州・沖縄の翼」として、さらなる飛躍を期待している。



《問い合わせ先》
宮崎県総合交通課　TEL：0985-26-7038

鹿児島 Kagoshima

奄美パーク開園20周年記念 奄美群島伝統芸能の祭典“島々の饗宴”開催！

鹿児島県の南部に位置し、８つの島々がそれぞれに個性的な伝統・文化を有する奄美群島。その独特な地域文化の情報発信拠点である鹿児島県奄美パークは、奄美大島北部の空港近くにあり、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した「奄美の郷」と、奄美の自然を愛し、亜熱帯の植物や鳥などを生涯にわたって描き続けた孤高の日本画家、田中一村の作品を展示する「田中一村記念美術館」を併設している。

この奄美パークの開園20周年を記念して、10月29日（土）と30日（日）に、奄美群島全域から地域を代表する伝統芸能が一堂に会し、島々で脈々と受け継がれてきた独自の伝統文化や伝統芸能などを披露する“島々の饗宴”を開催する。同じ奄美群島でも文化の特徴に違いがあり、群島北部は鹿児島県本土の影響が見られ、南下するにつれて琉球文化の影響が色濃くなる。それぞれに特徴のある島唄や踊りなどの伝統芸能は見どころ満載で、奄美文化の豊かさを実感できる貴重な機会である。

会場には各島々の特産品販売ブースが設けられ、島料理や黒糖・フルーツを使ったスイーツなどを堪能できる。

また、30日には記念式典を開催し、地元節田小学校の伝統であるアマンディー太鼓の演奏や、喜界島出身の唄者である川畑さおり氏による奄美シマ唄の披露、作家・博物学者の荒俣宏氏による記念講演を予定している。

この機会に、ぜひ奄美パークにお越しいただき、魅力いっぱいの奄美の文化を満喫していただきたい。



奄美パーク全景

《問い合わせ先》
鹿児島県奄美パーク　TEL：0997-55-2333

沖縄 Okinawa

国内最大の文化の祭典！「美ら島おきなわ文化祭2022」2022年10月22日～11月27日開催

今年10月22日（土）から11月27日（日）までの37日間にわたり、国内最大の文化の祭典、「美ら島おきなわ文化祭2022」が、いよいよ開催される。

沖縄県は2022年度、日本復帰50周年を迎えた。

その節目の年に開催される「美ら島おきなわ文化祭2022」では、沖縄文化の魅力を県内外に発信する。

開催期間中、沖縄県実行委員会が主催する総合フェスティバル、市町村実行委員会等が主催する分野別フェスティバルのほか、連携イベントも含めて、160以上の多様な文化イベントが県内全域で開催される。

去る７月23日には「美ら島おきなわ文化祭2022」100日前プレイベントが開催され、イベントでは、高校生による書道・フラ・手話パフォーマンスや現代版組踊「肝高の阿麻和利」が披露されたほか、開・閉会式演出家によるトークライブが行われた。

沖縄大会では、伝統文化や芸能、演劇、音楽、生活文化、食文化等さまざまな文化芸術を味わっていただくとともに、日本における文化の多様性を感じていただけるような大会を目指しているので、ぜひこの機会に沖縄にお越しいただきたい。



100日前プレイベント開催の様子

《問い合わせ先》
美ら島おきなわ文化祭2022沖縄県実行委員会事務局
TEL：098-917-1108

表紙説明　※当地域でオススメの観光についてご紹介します。

稲佐山（1000万ドルの夜景）
（長崎県）

長崎の夜景は、2021年に開催された「世界夜景サミット in 長崎」において、モナコ、上海とともに「世界新三大夜景」に選ばれました。

市内に数ある夜景観賞スポットの中でも、特に人気なのが長崎市のランドマーク的存在の「稲佐山」。360度の大パノラマを望むことができ、その「1000万ドル」とも称される夜景は、長崎港を中心としたすり鉢状の地形の中で営まれる人々の生活の灯（あか）りによって彩られています。

また、晴れた日の昼間には、長崎市街地はもちろんのこと、雲仙、天草、五島列島まで眺めることができます。

稲佐山の中腹にある稲佐山公園は、憩いの空間やレクリエーションの場として、多くの県民の皆さんに親しまれており、大駐車場を完備したイベント広場、野外音楽堂もあり、さまざまなコンサートでもお馴染みの会場となっています。

稲佐山山頂へは、麓からはロープウェイで、中腹からはスロープカーでも登ることができ、ガラス張りの車内からの眺めもまた格別です。


稲佐山からの景色

《問い合わせ先》
長崎市コールセンター「あじさいコール」
TEL：095-822-8888

スケジュール（10月）

日（曜）	会合名等
4日（火）	九州・韓国経済協力会議2022（韓国釜山広域市・ロッテホテル釜山）
5日（水）	第1回観光委員会（福岡市・福岡市科学館 サイエンスホール）
	九経連・経団連共催　農業活性化に向けた企業タイアップセミナー（東京都・経団連会館）
6日（木）	長崎地域委員会（長崎市・ホテルニュー長崎）
	第3回九州MaaSプロジェクト研究会（宮崎市・ANAホリデイ・イン リゾート宮崎）
7日（金）	第1回再生可能エネルギー産業化推進委員会（福岡市・九経連）
12日（水）	ダイバーシティ「幸せコミュニティ」推進委員会第2回企画部会（福岡市・九経連）※Web併催
	第1回農林水産委員会（福岡市・九経連）※Web併催
15日（土）	島原・天草・長島架橋構想及び九州西岸軸構想推進地方大会（鹿児島県出水郡・長島町文化ホール）
17日（月）	西日本経済協議会第64回総会（島根県松江市・ホテル一畑）
21日（金）	東九州自動車道建設促進中央大会・提言活動（東京都・都市センターホテル他）
24日（月）	九州・山口ベンチャーマーケット2022（福岡市・ＪＲ九州ホール）※Web併催
27日（木）	第42回九州地域戦略会議（鹿児島県内）
28日（金）	国際委員会企画部会（福岡市・九経連）※Web併催

新入会員企業（8月）

ＡＮＡクラウンプラザホテル福岡
総支配人　柴田　公房　福岡市博多区博多駅前3丁目3-3　TEL：092-472-7821　従業員数：180名
事業内容：ANAクラウンプラザホテル福岡の運営

西肥自動車株式会社
代表取締役　山口　健二　佐世保市白南風町9-2　TEL：0956-25-1111　従業員数：471名
事業内容：乗合バス事業、貸切バス事業、不動産事業、広告代理店事業

◆九経連ホームページ　https://www.kyukeiren.or.jp
◆九経連メールアドレス　info@kyukeiren.or.jp
月報・ホームページをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

国連人間居住計画（ハビタット）福岡本部（アジア太平洋担当）を応援しよう！

国連ハビタットは、「都市のより良き未来」に向けて、都市化と居住の問題に取り組む国連機関です。
CSR活動またはESG投資の取り組みとして、国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）を一緒に応援してくださる協力企業を募集しています。

【国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）】

国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）は、アジア太平洋地域における開発途上国の居住問題に取り組むとともに、「住民主体のまちづくり」を推進している九州唯一の国連機関であり、アジア太平洋地域を統括する地域事務所です。

国際社会の共通目標である持続可能な開発目標（SDGs）においては、目標11（住み続けられるまちづくりを）を担当しています。

福岡本部（アジア太平洋担当）は、日本政府をはじめ各国・機関から事業活動資金を得て、管轄している42カ国において、技術協力事業を実施しています。

急速な都市化による経済成長の一方でスラムの拡大など居住環境の悪化が深刻化しており、それらの改善に取り組んでいるほか、同地域において頻発する自然災害や紛争によって疲弊した住居やインフラ、人々の生活を再建することにも取り組んでいます。



海洋プラスチックごみ削減支援事業（フィリピン）



緊急再建支援事業（アフガニスタン）

～国連ハビタット福岡本部協力委員会参加企業募集～

国連ハビタット福岡本部協力委員会は、1997年に、地元経済界を中心に結成されました。協力委員会は参加企業から寄付（※）を募り、福岡本部（アジア太平洋担当）の活動を支援することで、アジア太平洋地域のまちづくりに協力しています。（※寄付金は、税額控除の対象となります）

なお、協力委員会企業は、自社ホームページや封筒・名刺等に、協力委員会のロゴを使用することができます。また、協力委員会企業名を福岡県庁HPや福岡本部（アジア太平洋担当）のパンフレット等で広くご紹介しています。ご関心のある方は、以下連絡先にお気軽にお問い合わせください。

【掲載イメージ】

国連ハビタット福岡本部の活動を支援しています

○○株式会社は国連ハビタット福岡本部の活動を支援しています

協力委員会のロゴは、国連ハビタットのロゴマークの一部を使用しており、以下のことを表しています。

「世界」を表しています。

「住まい」を表しています。

「そこに住む人」を表しています。

【連絡先】
福岡県企画・地域振興部国際局国際政策課内
国連ハビタット福岡本部協力委員会担当
TEL：092−643−3201　　E-mail：intpol@pref.fukuoka.lg.jp



2022年度 エネルギー講演会

「みんなで考えよう!!
明日のエネルギーと原子力」

九州経済連合会と日本原子力学会九州支部は、脱炭素電源としての原子力発電の役割と期待が高まる次世代炉の開発状況、そして、夏場・冬場の電力需給ひっ迫が常態化している中で、電力安定供給に向けた課題とカーボンニュートラル実現に向けたイノベーションなどについて、ご理解を深めていただくための講演会を開催いたします。

◆ 日　　時　2022年10月27日(木)　13時30分～17時00分(開場13時)

◆ 場　　所　電気ビル共創館3階　カンファレンスA(福岡市中央区渡辺通2-1-82)

◆ 講演内容

《第1部》　13時40分～15時10分

**「カーボンニュートラルにおける
原子力の役割と次世代炉への期待」**



東京工業大学 科学技術創成研究院　特任教授　奈良林 直 氏

カーボンニュートラルに向けた取り組みが加速している中で、脱炭素化電源としての原子力発電が果たす役割や課題、各国で期待が高まっている次世代炉への取り組み状況などについてお話しいただきます。

《第2部》　15時25分～16時55分

**「電力システムの安定供給の課題と
カーボンニュートラルに向けたイノベーション」**



(一財)電力中央研究所　研究アドバイザー　浅野 浩志 氏

電力システム改革と脱炭素化政策が進む中で、重要な社会インフラである電力の安定供給に向けた課題、カーボンニュートラル実現に向けたイノベーションの重要性などについてお話しいただきます。

◆ 定　　員　110名(定員になり次第締め切らせていただきます)

◆ 入 場 料　無 料

◆ 後　　援　福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、福岡経済同友会エネルギー・環境委員会

◆ お申し込み　下記のアドレス(またはQRコード)からお申し込みください。
https://ssl.q-enecon.org/koen/form.php

【お問い合わせ先】　(一社)九州経済連合会 九州エネルギー問題懇話会「エネルギー講演会」係
〒810-0004　福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館6階
TEL:092-714-2318　FAX:092-714-2678
HP:http://q-enecon.org/

本講演会は、参加者数を会場の収容人数の3分の2以下とし、消毒、検温など新型コロナウイルス感染防止対策を実施した上で開催いたします。

編集・発行　(一社)九州経済連合会
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号電気ビル共創館　TEL(092)761-4261(代表)　FAX(092)724-2102　　印刷　ダイヤモンド秀巧社印刷(株)